



グループワークで魅力ある学校づくりや生徒会について話し合う生徒らと、講演をした高橋亮平理事長（中央）＝豊後高田市の高田高



豊後高田、宇佐の中高10校

より良い生徒会活動探る

【豊後高田】生徒会活動の活性化を目指し、豊後高田、宇佐両市内の中学高校の生徒会役員らが話し合う交流会「新しい生徒会に向けて」が21日、豊後高田市玉津の高田高であった。生徒目線で学校生活改善や地域貢献の在り方などについて考えようと初めて企画。同高と市内全中学校、宇佐市の高校など計10校から約50人が参加した。

18歳選挙権の実現に尽力した一般社団法人「生徒会活動支援協会」（東京）の高橋亮平理事長（49）が講演。変化が速い時代の中、世界では10代の若者が起業するなど活躍していることを伝えた。自身が関わる熊本市の高校生生徒会は16校が連携して熊本魅力推進生徒会を立ち上げ、市長に政策提言したことを紹介した。

高校生と中学生に分かれたグループワークでは、それぞれが生徒会や学校生活の課題、特色ある取り組みなどを説明。魅力ある学校の実現や今後の連携の在り方などを議論した。

高田中の大西市哲さん（14）は「他の学校が力を入

初交流、連携など議論

れていることなどが参考になった。自分たちもできることをしていきたい」、高田高の園部康輔生徒会長（16）は「生徒会で自主的に予算配分を決めている話に刺激を受けた。地域に何ができるか模索しながら中学との連携も考えたい」と話した。

高橋理事長は本年度、高田高の生徒会アドバイザーとしてオンラインなどで支援を続けている。「失敗を恐れず、今できることにすぐ挑戦してほしい。豊後高田は学校と地域の距離も近く、全国のモデルケースになるような取り組みができるのでは」と期待した。

（小田原大周）



〔問①〕 交流会「新しい生徒会に向けて」を企画した目的は何ですか。

〔問②〕 グループワークではどのようなことが議論されましたか。

〔問③〕 高田高の園部生徒会長はどのようなことに「刺激を受けた」と話していますか。

〔問④〕 高田高の生徒会アドバイザーの高橋理事長は「失敗を恐れず、今できることにすぐ挑戦してほしい」と話しています。魅力ある学校の実現や、地域貢献のために、自分たちにできることを考えてみましょう。また、学校の仲間とも話し合ってみましょう。